

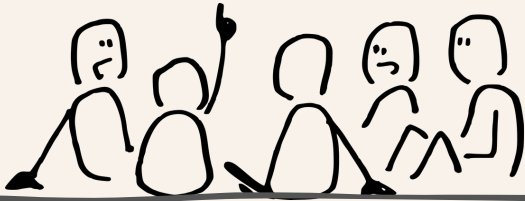
# 医療・医学教育の

# D&I

Diversity

Inclusion

## ってなんだろう？



#障害 #ジェンダー #多様性

#共同創造 #患者・市民参画 (PPI) #健康の社会的決定要因 (SDH)

#ピアサポート #多職種 #医療職の働き方 #医学教育

このプログラムでは、医療・医学教育に関わるすべての人の多様な背景や困難に関して、勉強会や対話をしています。これからの医療や医学教育を、一緒に考えませんか？



医学部医学科・健康総合科学科 学部生向け教育プログラム

# 医学のD&I ダイバーシティ & インクルージョン 人材育成プログラム

# 2025

[初回]

4月24日(木)

17:30~18:45@医学部3号館S102

\*メインプログラムは月1回開催予定  
日時は参加者で相談して決めます

\*3号館入ってすぐ右手の部屋です

参加登録



【主催】 医学のダイバーシティ教育研究センター

<https://cdmer.jp>

【お問い合わせ】

[diversity-center-office@m.u-tokyo.ac.jp](mailto:diversity-center-office@m.u-tokyo.ac.jp)

ご参加にあたりご不安なこと・伝えておきたいことがある方は  
ご遠慮なくお問い合わせください。



# 2024年度の活動

4月	オリエンテーション	プログラムの紹介/関心事の共有
5月	ディスカッション	本プログラムで取り組みたいこと
6月	ディスカッション	年間を通じて取り組みたいテーマ
7月	勉強会(話題提供)	企業におけるD&Iについて/障害学について
9月	勉強会	病院の働きやすさについて
10月	見学実習	東大病院精神神経科病棟・外来・カンファレンス見学/医療者へのインタビュー
10月	見学実習(報告)	見学実習の振り返り/多様な背景をもつ医療従事者の働きやすさについて
12月	調査・研究(報告)	「看護学生・医学生の困りごと・ニーズ調査」中間報告
1月	勉強会(話題提供)	看護師免許の欠格事由について
2月	勉強会(話題提供)	医療×デザイン
3月	ディスカッション	年間の振り返り・次年度に向けて



## 勉強会

(月1・メインプログラム)

参加している学生の探究したいテーマに沿って、相談しながらプログラムを創っていきます。

## 見学

訪問場所や日程を調整の上、見学・フィールドワークを行います。2023年度には四国の精神科病院などを訪ねました。

## 抄読会

(月1開催)

医療や医学教育に関する国内外の文献を読み合わせています。



## 抄読会

参加メンバーの関心事・読みたい書籍について共有

「職場で傷つくリーダーのための「傷つき」から始める組織開発」 勅使川原真衣 2024

「ケアとは何か 看護・福祉で大事なこと」 村上靖彦 2021

「感情と看護(シリーズ ケアをひらく)」 武井麻子 2001

ほか

## 看護学生・医学生の困りごと・ニーズ調査

月1回程度ミーティングを行い、解析・論文執筆



## 調査・研究

現在は、2023年度から継続しておこなっている調査・研究を学生主導で進めています。



## 参加者の声

### プログラム全体について

学生や教員、スタッフなど様々な立場の人の意見を聞き、考えを共有するのが楽しく、また多くの学びがありました。特に、東大病院の精神科を見学し、その感想を共有した回が印象的でした。学生の立場から気づいたことを、実際に働く職員の方々と話し合えたことで、様々な視点から病院のD&Iについて考えることができました。

### 「看護学生・医学生の困りごと・ニーズ調査」

#### について

学生から発案した今回の調査を、先生方にも加わっていただきながら協働して進められている環境に、とても感謝しています。昨年度から月に一度ほど集まり解析を行なっていますが、全国の看護学生・医学生が寄せてくださった切実な言葉は、今後の医学教育・医療現場の在り方の大きなヒントになっていると感じながら、解析に取り組んでいます。

### プログラム全体について

通常の医学科カリキュラムでは3年終了時までには臨床に触れる機会はほぼないため、病院見学を通して、病院にはピアサポーターなど様々な立場の方がいることがわかりました。これまでは健総との交流の機会もほぼなく看護師の方の目線での課題といったものも当初全く詳しくありませんでしたが、様々な立場の方のご意見を伺えとても勉強になりました。

### 抄読会について

抄読会では、医学教育・医療現場でのD&Iを考える基礎となる、社会や組織の構造や力学について多くを学びました。書籍から得る学びに加えて、学生・多職種など様々な立場の参加者が、日々の暮らしや仕事で感じていることを率直に語り合うことで、ケア現場ならではの特殊性が浮き彫りになったり、D&Iの実装の課題が明確になったりと、多くの発見がありました。「D&Iなんて絵空事だ」と思っている人こそ、D&Iの実装の難しさについて、深く、広く探求する可能性に開かれていると思います。